

難治性疾患克服研究の対象となっている 1 2 3 疾患について

主任研究者；久保恵嗣

疾 患 名；ヒストサイトーシス X (ランゲルハンス細胞組織球症)

1. 初代研究班発足から現在までの間の研究成果について（特定疾患の研究班が独自に解明・開発し、本研究事業として公表したもの。なお、原則他の研究事業等に依存していないもの。）

（１）原因究明について（画期的又は著しく成果のあったもの）

	時期 及び 班長名（当時）	内容	備考
1	平成 18 年～ 平成 19 年 久保恵嗣	全国疫学調査の施行	
2			
3			

他の研究事業の成果と分かち難い場合は、備考欄に「合」と記載し理由を付記。

（２）発生機序の解明について（画期的又は著しく成果のあったもの）

	時期 及び 班長名（当時）	内容	備考
1	平成 18 年～ 平成 19 年 久保恵嗣	全国疫学調査の施行	
2			
3			

他の研究事業の成果と分かち難い場合は、備考欄に「合」と記載し理由を付記。

(3) 治療法(予防法を含む)の開発について

ア 発症を予防し、効果があったもの

	時期 及び 班長名(当時)	内容	備考
1	平成18年～ 平成19年 久保恵嗣	全国疫学調査の施行	
2			
3			

他の研究事業の成果と分かち難い場合は、備考欄に「合」と記載し理由を付記。

イ 完治に至らしめることはできないが、進行を阻止し、効果があったもの

	時期 及び 班長名(当時)	内容	備考
1	栗山喬之	HistiocytosisXの診断基準の作成 (平成8年度呼吸不全調査研究班報告書)	
2			
3			

他の研究事業の成果と分かち難い場合は、備考欄に「合」と記載し理由を付記。

ウ その他根本治療の開発についてもの

	時期 及び 班長名(当時)	内容	備考
1			
2			
3			

他の研究事業の成果と分かち難い場合は、備考欄に「合」と記載し理由を付記。

2. 「1」以外で、国内、国外を問わず、研究成果の現在の主な状況について

(1) 原因究明について(画期的又は著しく成果のあったもの)

	時期	内容	文献
1			
2			
3			

(2) 発生機序の解明について(画期的又は著しく成果のあったもの)

	時期	内容	文献
1	2000年	肺ヒスチオサイトーシス X は喫煙に関連する疾患である。	Clin Chest Med 21: 11
2			
3			

(3) 治療法(予防法を含む)の開発について

ア 発症を予防し、効果があったもの

	時期	内容	文献
1			
2			
3			

イ 完治に至らしめることはできないが、進行を阻止し、効果があったもの

	時期	内容	文献
1	2000年	肺ヒスチオサイトーシス X は喫煙に関連する疾患である(禁煙が進行の減弱に有効である)。	Clin Chest Med 21: 11
2			
3			

ウ その他根本治療の開発についてもの

	時期	内容	文献
1			
2			
3			

3. 現時点において、次の事項について残された主要な課題及び今後の研究スケジュールについて

(1) 原因の解明について

	課題	解決の可能性	今後の研究スケジュール
1	全国疫学調査の施行 (平成 18 年 平成 19 年)	可能性あり	解析をおこなう
2			
3			

(2) 発生機序の解明について

	課 題	解決の可能性	今後の研究 スケジュール
1	全国疫学調査の施行 (平成 18 年 平成 19 年)	可能性あり	解析をおこなう
2			
3			

(3) 治療法 (予防法を含む) の開発

	課 題	解決の可能性	今後の研究 スケジュール
1	禁煙の効果を多数例で検討する。	可能性あり	全国的規模の研究の展開
2	全国疫学調査の施行 (平成 18 年 平成 19 年)	可能性あり	解析をおこなう
3			

4 . 重症化防止対策について

大多数の患者に対して外来通院によって症状のコントロールが可能な治療法 (重症化防止のための治療法) の確立

	重症化防止のための治療法確立について解決すべき課題	5 年以内に解決できる可能性	解決不可能な場合の理由	左記理由を解決していくスケジュール
1	確実な診断と禁煙指導の徹底	可能性あり	啓発活動が不十分	啓発活動の推進
2				
3				

4				
5				